

飼料情勢

1. とうもろこしのシカゴ定期は、12月には350セント／ブッシェル台で推移していたが、米国産の大豊作が確定する一方で、エタノール向けおよび輸出需要の増加や南米産の生育悪化懸念などを材料に370セント／ブッシェル台まで上昇した。その後、南米産の豊作期待から弱含み、現在は360セント／ブッシェル台となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、12月には340ドル／トン台で推移していたが、多雨によるアルゼンチン産大豆の減産懸念などにより370ドル／トン台まで上昇した。その後、天候回復により減産懸念が後退したことから値下がりし、現在は360ドル／トン台となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、11月には35ドル台で推移していたが、年末を控えた輸送需要の集中などにより40ドル／トン前後まで上昇した。その後、需要は一服したものの、中国向け石炭などの輸送需要が引き続き好調であることなどから、現在は38ドル／トン前後で推移している。
4. 外国為替は、11月中旬には110円台であったが、トランプ新大統領の経済政策に対する期待が高まったことや、米国の利上げ観測が高まったことなどから急激に円安がすすみ、12月中旬には一時118円台をつけた。その後、トランプ新政権の政策が不透明であることなどから円高がすすみ、現在は113円前後となっている。

